

## 第 18 回 ISO/TC207（環境管理）総会

環境管理規格審議委員会 事務局

1. 日時：2011 年 6 月 25 日（土）～7 月 1 日（金）
2. 場所：ノルウェー／オスロ／オスロコンGRESセンター
3. 参加国：44 カ国、11 機関から約 300 名が参加  
日本からは、吉田敬史団長（（合）グリーンフューチャーズ 社長）をはじめとして、30 名が参加。

### 4. 主な議題

本総会での主要議題は次の通り。

#### 4. 1 SC1（環境マネジメントシステム）

- ISO 14001/14004 改正
    - ・ 2010 年の TC207/SC1 レオン会議後に設置された、ISO 14001 改正アドホックグループ（AHG）及び ISO 14004 改正 AHG において、規格の枠組み文書類（改正のマンデート、設計仕様書、NWIP（新作業項目提案）案、ISO ガイド 72 に基づく妥当性評価）を作成。
    - ・ オスロ会議では、これらの文書類をレビューし、修正案を作成したうえで、ISO 14001 及び ISO 14004 の NWIP を投票にかけることを決議した。
    - ・ ISO 14001 の改正の骨子となるマンデートには、ISO 14001 の改正において、ISO/TMB/TAG JTCG<sup>注</sup> で開発された MSS 共通要素を組み込むこと、及び、2010 年に TC207/SC1 に提出された EMS future challenges Study Group のレポートを考慮することを定めている。
- 注：JTCG（Joint Technical Coordination Group(合同技術調整グループ)）。ISO で作成されている第 3 者認証用のマネジメントシステム規格の整合性を向上するために ISO/TMB（技術管理評議会）のもとに設置されたグループで、ISO マネジメントシステムの共通テキスト、共通用語と定義を検討している。構成メンバーは ISO においてマネジメントシステムを開発している TC（専門委員会）、SC（分科会）、PC（プロジェクトコミティ）から構成される。
- ・ 今後、8 月に NWIP が回付され、それぞれの規格改正のための作業グループを設置し（TC207/SC1/WG5（ISO 14001 改正）及び TC207/SC1/WG6（ISO 14004 改正）、規格の起草作業を開始する。WG5 は 12 月頃に、WG6 は 2012 年 3 月頃に第 1 回会議（WG5 と併催）が開催される予定。
- JTCG（ISO DGuide83）コンサルテーション
    - ・ ISO マネジメントシステム規格（MSS）の整合化のために、ISO/TMB/TAG JTCG で

開発された MSS の共通構造、テキスト・用語等を規定した ISO ドラフトガイド 83 (ISO DGuide83) に対して、①ISO メンバー国への投票 (4 ヶ月)、②関連 TC/PC/SC へのコンサルテーションが実施されている。

- ・ コンサルテーションへの対応として、オスロ会議で、この ISO DGuide 83 が ISO 14001 の規格開発やユーザーに与える影響について審議を行い、次のような意見があげられた。
    - ✓ ISO 14001 への影響として、MSS 共通テキストに環境マネジメントシステム固有テキストを組み込むことの困難性や要求事項の増加の可能性
    - ✓ ユーザーへの影響として、テキストの変更による費用の発生など
  - ・ 今後、TC207/SC1 メンバーは 8 月 5 日までに追加のコメントを TC207/SC1 に提出し、TC207/SC1 内のコメント検討グループによって TC207 及び TC207/SC1 としての回答案を取りまとめ、9 月 6 日までに TMB (技術管理評議会) に提出する。
  - ・ この投票及びコンサルテーションの結果は、9 月の TMB 会議でレビューされ、その後の対応について TMB で決定される予定である。
- Briefing Note 作成
- ・ オスロ会議で、ISO 14001 の適用に関する支援文書として作成している、次の 3 つの事項に関する Briefing Note 案を審議した。
    - ✓ ISO14001 がビジネス戦略及び一般マネジメントにどのように関係するか
    - ✓ ISO14001 がサプライチェーンにおける環境リスクの軽減にどのように影響するか
    - ✓ ISO14001 と他の ISO14000 ファミリー規格との関係性
  - ・ 今後、これらの Briefing Note の修正・レビューを行った後に、ISO ウェブサイトに公開する予定である。
  - ・ さらに、今後の Briefing Note として、社会的責任 (SR) や温室効果ガス (GHG)、エネルギーマネジメントのための ISO 14001 の適用があげられた。
- WG 報告
- ・ ISO 14005 (段階的環境マネジメントシステムの実施の指針) を開発した WG3 は、2010 年に IS (国際規格) が発行されて WG の作業が完了したため、解散。
  - ・ ISO 14006 (エコデザインの指針) は、FDIS (最終国際規格案) 投票の結果承認され、WG の作業が完了したため、解散。なお、ISO 14006 は 7 月 15 日に発行されている。
- MRV MSS
- ・ MRV (Monitoring、Reporting、Verifying/GHG 削減のモニタリング、報告、検証) の MSS について、TC207/SC1 及び SC7 の各国の UNFCCC 交渉者に対して、MRV の MSS が有益であるかなどについてのアンケートを実施した。
  - ・ 回答結果については、棄権数が多く十分な結果とならなかったため、TC207/SC1 と SC7 との合同 AHG を設置して、質問内容を改良するなどして更なる調査を行うこととした。
  - ・ 10 月末までに TC207/SC1 及び SC7 メンバーに質問を回付し、2012 年 3 月末を締切りとして回答の評価を行う。次回の総会で更なるアクションについて審議する。

➤ その他

- ・ 日本から ISO 14001 に対するユーザーサーベイの実施について提案があり、アドホックグループ (AHG) を設置して、今後、サーベイのプロセスやアプローチを検討し、次回の総会で報告を行うこととなった。日本も AHG メンバーに登録済み。
- ・ TC207/SC1 議長 (英国) 及び副議長 (インドネシア) の任期終了に伴い、さらに 3 年の期間で再任命。
- ・ フランスのエキスパートであるジャック・サラミト氏のリタイアに関する感謝の辞。

#### 4. 2 SC2 (環境監査)

➤ ISO 19011 (マネジメントシステム監査のための指針)

- ・ ISO/TC176/SC3 との共同作業グループで改正作業が進められており、近日中に FDIS が回付される予定。IS 発行は 2011 年 10 月を予定している。
- ・ 2011 年のパリ会議で DIS (国際規格原案) 19011 の附属書 A (各セクターの監査員に必要な知識及び技能) について議論があり、修正を行った。
- ・ ISO 19011 の適用支援のためのウェブサイトの設立を検討中。管理者は ISO/TC 176/SC 3 とし、掲載する情報など詳細の検討を行っている。TC207/SC2 からインプットを行うため、このグループにメンバーに登録することを要請。

➤ 環境マネジメントシステム第 3 者認証審査員の力量要求事項の開発

- ・ 6 月に NWIP が TC 207/SC2 で承認され、ISO/CASCO (適合性評価委員会) との共同作業グループ (JWG) を設置し、ISO/CASCO 主導のもと開発を行うこととなった。
  - ・ オスロでは JWG 会議に備えるための TC207/SC2 内での事前会議を開催し、規格開発にあたって主に次の事項を TC207/SC2 として確認した。
    - ✓ NWIP は、監査員の力量最小要求事項とすること、個々の監査員の力量だけではなく、監査チームの選定等、審査登録機関の認証決定機能 (certification decision) に対する力量要求事項も規定する。
    - ✓ ISO/DIS 19011 の附属書 A 及び ISO/IEC 17021 の附属書 A をインプット文書とする。ただし、ISO/IEC 17021 とは重複させない。
    - ✓ 第 1 回 JWG 会議までに、開発にあたっての関連文書類を収集して調査する。
    - ✓ 第 1 回会議は 9 月 20 日～22 日として、ISO/CASCO 事務局に確認する。また、TC 207/SC 2 から共同コンビナを派遣する。
  - ・ NWIP の発行形態について、ISO 中央事務局との間に認識のずれがあり (中央事務局は ISO/IEC 17021-2 とすることを決定)、オスロ会議での審議の結果、PAS ではなく TS (技術仕様書) へ変更することを推奨事項として決議した。後日、正式に SC2 メンバーに対して TS で開発することに対する承諾を得るため投票を行う。
- 環境及びサステナビリティ報告の監査及び検証
- ・ SC2 議長による環境及びサステナビリティ報告書の市場ニーズ調査のレポート報告が

あり、本件に関する AHG を設置してさらに 1 年間調査を行い、2012 年のタイ総会で報告を行うこととなった。

- ISO 14015（環境マネジメントー用地及び組織の環境アセスメント）
- ・ 2012 年に定期見直しが予定されている。来年度の総会で今後継続するかを検討するため、事前に規格の使用状況などの調査を行う。

#### 4. 3 SC3（環境ラベル）

- ISO 14021（環境主張の自己宣言ータイプ II 環境ラベル）追補の改正
- ・ SC3 総会で、FDAM（最終追補原案）の投票結果をレビューし、議論を行った。
  - ✓ オスロ会議前に、FDAM を投票にかける段階で、規格内のシンボルが TC145/SC1（案内用図記号）との整合の問題で突然変更されたことに対してブラジルから異議があった。
  - ✓ シンボルの問題と FDAM の円滑な発行の妥協案として、①8 月末まで FDAM の発行を遅らせる、②シンボルの変更の時間的制約を TC145/SC1 に確認したうえで、短時間で変更が可能であれば、シンボルの変更を行う。③期間が十分でない場合は、シンボルの部分のみ削除することを提案することを決定。
- ISO 14020 改正検討
- ・ 改正作業を進めようとしたタスクグループ（TG）による改正に関するアンケート（Potential revision needs of ISO 14020）の結果、及び 2010 年末に実施した定期見直しの投票結果（改正反対が過半数）を踏まえて、現時点では改正を行わないことを決議。審議では、米国、英国などから改正に関するアンケート結果に対する不透明性への指摘や、NWIP を発行するという TG の提案に対する反対の意見が出た。
- ISO 14020 シリーズのレビュー
- ・ 2014 年の定期見直しに向けて、“フットプリント（シングルイシュー）”を扱うタスクグループを設置し、マーケットニーズやライフサイクル 5 原則との整合や、規格の構造を検討し、次期改正に備える。尚、TG の作業はメールベースで行われる予定で、日本も参加を表明。次回の SC3 会議で中間報告を提出する予定である。
- ISO 14020 パンフレット
- ・ ISO 14020 シリーズに関するパンフレットの出版を ISO 中央事務局に提案する。最近出版された気候変動への取り組みのための GHG 制度に関するパンフレットのようなものを想定。

#### 4. 4 SC4（環境パフォーマンス）

- ISO 14031（環境パフォーマンス評価ガイドライン）
- ・ 現在改正作業が行われており、オスロ会議では、CD（委員会原案）投票に対するコメントの対応及び DIS の作成を行った。

- ・ 2011年第4四半期頃に DIS 回付（5ヶ月投票）予定。
- ・ 次期 ISO 14001/14004 の改正において、改正版 ISO 14031 を適切に参照するよう TC207/SC1 に働きかけていく。
- ISO/TS 14033（環境マネジメント - 定量的な環境情報－ガイドラインと事例）
  - ・ 2011年4月から6月にかけて行われた DTS（技術仕様書原案）投票の結果 TS 化が承認されており、オスロ会議では投票結果のレビューとコメントの対応を行った。
  - ・ 2011年9月までに、ISO/TS 14033 を ISO 中央事務局に提出し、11月に TS 発行予定。
- EPE（環境パフォーマンス評価）ワークショップ
  - ・ 2012年の TC207 タイ総会においてパフォーマンス指標及び定量的環境情報に関するワークショップを開催するため、検討を行う。

#### 4. 5 SC5（ライフサイクルアセスメント(LCA)）

- ISO 14045（環境効率評価）
  - ・ DIS 投票の結果、承認。オスロでは DIS に対するコメントの対応を行い、FDIS の回付を決定した。
- ISO 14046（ウォーターフットプリント：WF）
  - ・ オスロ会議前に NWIP の承認投票が行われ、SC5 総会の場でその決議が行われた。結果、NWIP は承認され、PWD3 の名で予備段階として登録されていた文書が、作成段階の WD1（作業原案）として登録されることとなった。次回のドラフトは WD2 として8月末に発行予定である。
  - ・ SC5/WG8 会議では、PWD3 に対して提出された各国コメントへの対応を審議した。主な論点は、WF の定義や計算方法、影響評価手法の概念図等。WF の定義をめぐることは、これまでも熱い議論が繰り返されてきたが、WFN が ISO に歩み寄る形となり、世界標準作成に向けた一定の合意が得られた。また、“Figures”、“Impact Assessment”、“Qualitative Assessment”、“Annex (Examples of application)”、“Annex (Organization)”の5つの TG が次回会議に向けて、素案の作成作業を進めることとなった。
- クリティカルレビュー及び組織への LCA の適用
  - ・ オスロでは、各テーマの TS 化の可能性についてタスクフォースの報告と議論を行った。
  - ・ 2つの TS を NWIP として申請することを決定。TC207/SC5 メンバーへの回付にあたって、CAG のポートフォリオグループに両 NWIP 案を提出した。また、TS を開発するグループとして、TC207/SC5/WG9（クリティカルレビュー）及び WG10（組織の LCA）を設置。
  - ・ 今後、NWIP 案を回付し、9月～11月に投票を実施。来年早々に第1回会議、2012年6月にはタイで第2回会議を開催予定。
- ISO 14040/14044 の次期改正

- ・ 両規格の見直しに対するコメントが取りまとめられ、オーストリア、コロンビア、スウェーデン、スイス、アメリカが修正を提案した。
- ・ 議長から、ある程度の時間をかけて主要な論点を選ぶべきとの提案があり、修正案の募集を継続することとなった。

#### 4. 6 SC7 (温室効果ガスマネジメント)

- ISO 14065 の定期見直し
  - ・ 定期見直しの結果、“確認（改正なし）”となったが、日本を含む7カ国が改正要望であった。
  - ・ オスロで、改正の可能性について検討を行い、TC207/SC7 総会で規格の明確化のためのマイナー改正を念頭においた作業を TC207/SC7/WG1 において行うことを決議。
- ISO 14067 (製品のカーボンフットプリント)
  - ・ オスロでは、事前の投票で否決された CD2(委員会原案第2版)のコメントの処理と原案の開発を行った。議論では特に、コミュニケーション部分の構造（公開及び非公開のケース）の改良、3rd party verification が争点となった。また、途上国から、当規格（案）が貿易障壁となることを懸念する発言があった。
  - ・ オスロでの SC7 総会において DIS 化が否決され、8月頃に CD3 として2ヶ月投票に付すことを決定した。IS の発行は 2013 年初頭となる可能性が高い。
- ISO/TR 14069 (ISO 14064-1 のガイダンス)
  - ・ WD3 に対するコメントのレビューを行い、WD4 を作成した。
  - ・ 今後、WD4 をメンバー国に回付してコメントを受け付け、2012 年1月に予定されているシドニー会議でコメントをレビュー、その後 CD 化の投票を行う予定。
  - ・ SC7/WG3 事務局より TR (テクニカルレポート) から TS への移行提案があったが、SC7 総会において TR として維持することを決定した。
- インドネシア提案の測定/監視方法論に関する NWIP
  - ・ AHG によるレポートにおいて、REDDs (森林減少・劣化による排出削減) に関する MRV に関わる方法論のテンプレートを作成することが妥当との評価。
  - ・ TC207/SC7 として、NWIP の作成が妥当であるとの評価を行い、今後 NWIP の準備を行うためのエキスパートを招集する。

#### 4. 7 WG8 (マテリアルフローコスト会計 (MFCA))

- WG8 の報告
  - ・ これまでに、コンビナ及び事務局：日本、協同コンビナ：ブラジルで、27カ国から57名のエキスパートが参加。規格開発を開始してから計5回の国際会議を開催した。
  - ・ 現在、ISO 14051 (マテリアルフローコスト会計 一般的枠組み) の FDIS の投票期間中 (8月2日締切り)。

➤ オスロ総会中の活動

- ・ 2日間にわたってワークショップを開催し、回付中の FDIS のレビュー及び欧州や日本における MFCA のケーススタディーなどのプレゼンを行った。

#### 4. 8 TCG (用語調整グループ)

- ・ オスロでは、TCG の作業セッションのほかに SC7/WG2 との 1 日会議を実施し、主に ISO/CD 14067 の用語・定義に対する検討を行った。
- ・ TCG のタスクとして、TC207 における一般 (Generic) 用語の収集とデータベース化、用語の整合性・翻訳問題に関する議論などがある。
- ・ GHG とカーボンフットプリントの用語、MFCA、エコデザイン、ウォーターフットプリントなどの用語・定義の調整を行った。

#### 4. 9 CAG (議長諮問グループ)

➤ CAG タスクフォース (TF) の報告

CAG では、2009 年に策定された戦略計画に基づいて、3 つの TF が設置されている。オスロ総会では、主に以下の報告・活動を行った。

(1) マーケット TF

- ・ 4 月に回付された ISO14000s の活用状況及び今後の規格ニーズに関する調査報告が行われた。
  - ・ 調査の目的は、市場のニーズ、規制当局や国際機関のニーズ、環境保護のための新規格の開発のためのインプットとすること。
  - ・ 規格のマーケットニーズ、ISO 14000s の売上状況・利用状況、各国政府の活用度、市場の認知度 (認証件数) などについて調査を実施。
  - ・ 今後規格化すべきものとして、気候変動、生物多様性、環境リスク分析及び評価、水利用のマネジメント、持続的な原材料のマネジメントシステムなど。
- ・ 調査の回答率の低さ (10%) や実施方法、回答のデータの信頼性に懸念があるなどのコメントがあった。

(2) ステークホルダーフォーラム

- ・ 1 月の CAG ハノイ会議以降、TC 207 のリエゾンメンバーとして参加していない機関のコンタクトリストを作成し、このリストを基に、TC207 の現在の動きに対する評価、将来の動き、プロセスなどについての調査を実施。
- ・ オスロでは、持続性、環境に関する組織のリーダーに対して TC207 活動への参加、協働、意識向上の促進を目的に、ワークショップを開催。
- ・ 今後は、さらに新しいメンバーにコンタクトをとり、調査を実施する予定。この調査結果はポートフォリオタスクフォースへのインプットとする。また今後 ISO 14001 改正に対するインプット (課題) のほか、ISO 14000s のプロモーションを行う。

- ・ 各機関に対する ISO 14000s の認識を高め、能力形成（Capacity building）の醸成を行う。また、この活動を通じて、ISO の規格作成プロセスの見直しと、各関係機関が規格作成プロセスへ積極的に参加することを促進する。
- (3) ポートフォリオ TF
- ・ TC207 において提案された NWIP に対して、NWIP 投票前に、NWIP の様式や ISO ガイド 72 の規定との完全性、TC207 セクターポリシーとの整合性、マーケットニーズとの整合などの観点から評価を行う。
  - ・ オスロ会議では、ISO 14046、ISO 14001、ISO 14004、SC5 で検討されているクリティカルレビュー及び組織の LCA のための追加仕様の 5 つの NWIP のレビューを実施し、組織の LCA 以外の新規提案を承認した。
  - ・ 組織の LCA については、次回の PTF 会議の検討のためにさらなる明確化を推奨した。
- ISO 気候変動戦略
- ・ ISO/DEVCO（発展途上国対策委員会）のワークショップにおいて、ISO における気候変動に関する規格の作成においては包括的な方針の作成が必要であるとの推奨事項が ISO に提出された。
  - ・ これを受け、TC207 内にタスクフォース（TF）を設置して検討を開始することを決議した。
- TC207 セクター方針
- ・ 1 月の CAG ハノイ会議で検討した TC207 セクター方針に関して、ANSI（米国）及び JISC のコメントに対する TC207 事務局の回答が承認されたことが報告された。
  - ・ 今後、ISO の ISO/IEC Directive Maintenance チームで回答を参考に起草が開始される。
- ISO14000 シリーズ規格の関連性
- ・ 特に、SC7、SC5、SC3 などにおける規格開発の連携が不十分であったり、規格同士の関係性が不明確といった意見があり、TC207 事務局がホワイトペーパーを作成して次回の CAG 会議で報告することとなった。

#### 4. 10 その他の事項

- 土地劣化/砂漠化 WG
- ・ 2010 年のレオン総会で、“Good practice guideline”として NWIP を準備することを決定。UNCCD（国連砂漠化対処条約）と整合し、かつそれを支援する文書となることを目指す。
  - ・ 規格のスコープとして、①土地劣化/砂漠化を防止又は最小化するための土地マネジメントにおける“good practice”を構築するための指針を提供、②土地劣化の driver 及び現状の慣行に関連するリスクの評価に基づく土地マネジメントの“good practice”を明確にする枠組みを定義し、さらに“good practice”の実施に関する監視及び報告の指針

- も提供する、③私的及び公的セクターによる利用を意図している。
- ・ オスロでは、アフリカ、アジア、豪州からの積極的な参加のもと、WD を作成。
  - ・ 今後 WG メンバーに WD1 を回付予定。次回会議は 2012 年 1 月の最終週に開催予定。
  - 途上国コンタクトグループ (DCCG)
    - ・ オスロでは、2 回のセッションを開催。そのうち 1 回はワークショップを開催して、メンバー間の経験の共有を行った。
    - ・ TC207 活動への効果的な参加のための能力形成の必要性に留意し、これを達成するための具体的な活動の提案をメンバーに要請する。
  - スペイン翻訳タスクフォース
    - ・ 前回の TC207 総会以降、ISO 14021 の追補、ISO 14066、ISO 14005、ISO/FDIS 14006、ISO/FDIS 14051、ISO/DIS 14045 のスペイン語翻訳を行った。
  - ISO/TR 14062 (環境適合設計) の改正提案
    - ・ 日本から、ISO/TR 14062 を IS として改正する提案を今年度行うことについて、オスロの CAG 会議及びオープニングのワークショップでプレゼンテーションを行った。
      - ✓ 英国、日本、スウェーデンのリーダーのもと、TC207 直下に WG を設置して開発を行うことを考えている。
      - ✓ 改正する規格は要求事項とガイダンスから構成され、組織における包括的かつ実用的なエコデザインを規定する。また、IEC 62430 (電気電子製品の環境配慮設計) などの関連規格とも整合をとる。
    - ・ 今後、CAG メンバーに NWIP のドラフトを回付してコメントを受け付け、改善した後、次回の CAG 会議 (2012 年 1 月) でレビューできるように CAG のポートフォリオ TF に回付する。
  - SR タスクフォースの解散
    - ・ ISO 26000 の発行による作業終了のため、SR タスクフォースを解散することを決議。
  - 次回 TC207 総会
    - ・ 2012 年 6 月にタイ/バンコクで開催予定。